

令和6年度 和泉葛城山ブナ林事業計画

1	計画の概要	1
2	コアゾーンにおける調査	1
3	コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理	1
4	バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動	2
5	管理体制の確立・適正な利活用の誘導	3

令和6年4月

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

1 計画の概要

令和 6 (2024) 年度は、令和 2 (2020) 年度に策定した「和泉葛城山ブナ林 10 ヶ年計画」に基づき、コアゾーン、バッファゾーンで各種調査を実施するとともに、ハイキングを開催する。

2 コアゾーンにおける調査

(1) 天然下種更新モニタリング

令和 5 (2023) 年の結実が少なかったことから、令和 6 (2024) 年に発芽する可能性は低いが、過去の結実種子による実生が生育している可能性があるため、確認に努め、確認された場合はその生育状況をモニタリングする。

(2) 花芽・結実調査

種子生産の豊凶周期を把握するため、3月～4月にかけて花芽調査、11月に結実調査（殻斗調査）を主に目視観察により実施する。

(3) 花がら・種子調査

開花状況、種子の生産、種子病原菌の状況、散布の状況および種子健全度の経年変化を把握するため、トラップ布による花がら（落下した雄花序）及び種子の採取調査を行う。

調査地点は過年度と同じくコアゾーン4プロットとし、各プロットにつきトラップを5基設置する。

健全な種子が採取できた場合は苗を作るなど有効活用を図る。

(4) ギャップ更新調査（ギャップ内群落構造の調査）

コアゾーン内の風倒木によるギャップ形成地において、植生の変化を記録し、ブナ林の天然更新の状況を把握する調査を実施する（前回は令和 2 年 1 月に実施）。

ギャップ形成区 2 カ所、対照区（ギャップなし）2 カ所の、計 4 カ所のコドラート（20×20m/カ所）で毎木調査を計画する。

3 コアゾーン及びバッファゾーンで実施する調査・保全管理

(1) 植生調査準備

10 ヶ年計画において、令和 7 (2025) 年度にコアゾーンの植生調査が計画されているが、シカによる食害が広がる前の植生状況把握としても位置付け、今年度中にコア・バッファの植生調査を計画し、調査地点の設定等の準備を行う。

(2) 生育環境調査

ブナ林の南限に近いとされる和泉葛城山のブナ林では、夏場の気温上昇がブナの生態に

影響を与える可能性が考えられるため、過年度からの通年測定を継続して、長期間の森林生育環境データを取得し、分析する。

調査地点は令和 5（2023）年度と同じ、コアゾーン 2 カ所、バッファゾーン 7 カ所とする。

（3）哺乳類モニタリング

ニホンノウサギやアライグマが優占する生息状況が確認された一方で、イノシシの増加やニホンジカの初確認など、やや懸念される変化があり、植生への影響も懸念されることから、監視体制を強化する。自動撮影カメラは、既設地点のうち撮影頻度の低いバッファゾーンの 2 カ所のカメラを移設する。さらに 2 カ所にカメラを増設し、合計 11 カ所の監視地点を設定する。

（4）獣害対策【新規】

和泉葛城山周辺では河内長野市周辺や泉南地域でニホンジカの定着が確認されていることから、いずれ和泉葛城山周辺でもニホンジカが定着し、ブナ林の植生にその採食の影響が及ぶ可能性は高い。また、アライグマやイノシシの増加も懸念されるため、監視体制を強化するとともに、確認・定着に応じた対策フローや方針を検討する。

また、シカ侵入による影響のスピードは速いことから、植生を保護する柵の検討等を早急に進める。柵を設置した場合は登山者等への説明板を設置する。

（5）ナラ枯れ対応

バッファゾーンにおけるドローン空撮写真から得られたナラ枯れ分布状況を参考に現地確認を行い、令和 5 年に枯死した被害木について、成虫の脱出を抑制する黒ビニールシート巻きを行う。5 月中に施工して、11 月頃撤去する。

4 バッファゾーン等における調査及び保護・増殖活動

（1）ブナ若木の育成

バッファゾーン植栽地において、植栽したブナの生育環境を維持・改善するため、枝払い、刈払い、清掃などを行う。

また、植栽地の中で、周辺樹林の成長などによって日照条件が悪く、生育の悪い植栽木が確認されているため、バッファゾーンの生育適地への移植を行う。

（2）森林保全整備

立木の健全な育成による森林被害の未然防止、林内照度の上昇による公益的機能の増進、ブナとの混交林への移行を目的に、森林保全整備を行う。

平成 8 年ごろ購入植栽された新潟ブナと本地域由来のブナが遺伝子レベルで交雑するのを避けるため、新潟ブナを伐採したが、伐採後の根株からの萌芽が確認されたため、萌芽を伐採する。

(3) 天然ブナ全数調査に向けた準備

令和 8 (2026) 年度にバッファゾーンでの胸高直径計測作業を計画しているため、あわせて個体番号保全を実施する。したがって 2024 年の個体番号保全は実施しない。

5 管理体制の確立・適正な利活用の誘導

(1) 保護増殖検討委員会とワーキンググループ、関係者協議

1 回の保護増殖検討委員会と、各種調査及び保護・増殖活動の進捗および成果の確認を行うため、2 回程度のワーキンググループ会議の開催を予定する。

シカ対策や看板設置などにおいて和歌山県側との連携が必要となっているため、会議資料の情報共有等をすすめる。

(2) ブナ林観察会の開催

新緑のブナ林観察を主として 5 月中～下旬の市民参加観察会を開催する。山頂周辺をゆっくり観察できるように、登山・下山をバス利用にする。

(3) 看板の整備（利用ルールの検討と普及啓発）

現地調査結果をもとに、令和 6 (2024) 年度は関係者間の調整と基本計画の策定を行い、令和 7 (2025) 年度に看板製作、設置を行う。

(4) 記念植樹看板の設置

令和 5 年 12 月に行った天然記念物 100 周年記念の植樹木について、秋季までの生育状況を確認し、看板を設置する。植樹の目的、背景、啓蒙などの内容とする。

(5) 巡回

地元町会・自治会と連携し、3 人の巡視員により、毎月 1 回の巡回を実施する。

(6) 自然共生サイトへの登録準備【新規】

令和 12 (2030) 年までの世界目標となっている「30by30 目標」（陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標）に向けて「自然共生サイト」の認定制度が始まっている。コアゾーン・バッファゾーンの登録に向けて準備を進める。

以上